

平成 26 年度 第 3 回伊勢市環境審議会 記録概要（案）

1. 開催日時

平成 26 年 11 月 4 日（火） 午後 7 時 00 分～午後 9 時 00 分

2. 開催場所

伊勢市役所

3. 出席委員（14 名）

中村 貴司（公共的団体：伊勢商工会議所）
川端 利生（公共的団体：伊勢農業協同組合）
杉田 英男（公共的団体：伊勢湾漁業協同組合）
森本 幸生（公共的団体：伊勢市総連合自治会）
高橋 克彦（公共的団体：伊勢市環境会議）
山本 実（公共的団体：小俣町商工会）
高橋 虎彦（公共的団体：いせしま森林組合）
朴 恵淑（学識者：三重大学）
深草 正博（学識者：皇學館大学）
橋本 清（学識者）
笹岡 哲也（神宮司廳）
打田 雅敏（三重県南勢志摩地域活性化局）
岡本 忠佳（公募）
天野 雅弘（公募）

4. 欠席委員（3 名）

船谷 哲司（公共的団体：伊勢商工会議所）
竜田 和代（公共的団体：伊勢市女性団体連絡協議会）
坂内 正明（学識者：三重大学）

5. 審議事項

- (1) はじめに
- (2) 第 2 期伊勢市環境基本計画（案）について
- (3) その他

6. 審議要旨

(1) はじめに

○環境生活部長（坂本）挨拶

- ・ 11月中旬に議会に報告する案件でもあるため、忌憚のないご意見をいただきたい。

○会長（朴）挨拶

- ・ 第2期伊勢市環境基本計画（案）は良い形で出来てきていると感じている。写真やイラストなど、詳細を詰めていく必要はあるが、全体の方向性を確認いただきたい。

(2) 第2期伊勢市環境基本計画（案）について

○第2期伊勢市環境基本計画（案）について説明（事務局）

- ・ 資料1「第2期伊勢市環境基本計画（案）」の概要を説明。

○質疑・意見等

<関連する「第2次伊勢市総合計画」の指標について>

- ・ 第2次総合計画の目標値が低いように感じる。
 - ⇒太陽光発電設置件数は、地球温暖化防止実行計画に挙げている数値目標を設定している。資源化率は、ごみ処理基本計画の数値目標を設定しており、高い目標値を設定している。勢田川BOD値は、勢田川の環境基準を設定している。環境基準達成大気汚染項目は、光化学オキシダントが達成できていないので、そちらを達成したいと考えている。汚水処理人口、認定農業者数、下水道普及率については、総合計画を策定する際に所管部署から出された目標値になっている。一人あたり公園面積や市民参加による緑化回数も同様である。
- ・ 市民参加による緑化回数や環境学習時間数はどういった根拠になるのか。
 - ⇒皇學館大学がいくら出前講座を開催しても、学校では1～2時間としてしかカウントされない。（※指標は1学級における年間環境教育時間数であり、小中学校の学級数は約400であるため、1回の出前授業による数値変動は、約0.0025時間/学級・年にとどまる。）
- ・ 生涯学習という視点では、大人の教育にも目を向けるべきではないか。
- ・ 学校教育では○時間、生涯学習では○時間という目標を設定しても良いと思う。
- ・ 環境基本計画の位置づけを明示し、重点事業には環境基本計画独自の数値目標を設定すれば良いと思う。
 - ⇒総合計画は総合計画であるので、必ずしも環境基本計画に指標を載せる必要はない。

<各基本目標の考え方>

- ・ 省エネルギーな生活スタイル・事業活動という表現は正しいか。
 - ⇒検討し直す。例えば、環境負荷が少なく、エネルギー消費を抑えたといった表現でも良いと思う。
- ・ 各基本目標の考え方について、四角で囲うなどの見やすくなる配慮をお願いしたい。

<自然環境の保全>

- ・自然環境の保全をどう考えているのか。良好なところは残す・守る、多少人の手を入れる必要があるところは管理する、壊れたところは復元するという手法がある。美化活動や緑化運動は、本来その地域にない植物が植えられるなど、危険なこともある。緑化運動ではなく、自然復元運動などという表現にしてはどうか。
- ・動植物の生息・生育状況に関する調査を行うという取り組みはありがたい。何のために調査を行うのかというと保全のためである。現況把握と保全はセットで表現してほしい。
- ・里山等の整備・充実とあるが、どのような場所でどのようなことをしようとしているのか。
⇒現時点ではそこまでは検討していない。まずは、どういったところが重要なのか、復元しないといけないのか、こういった情報が不足しているので、調査を行い、里山として管理していくのか、完全に保全をしていくのかを検討していきたいと考えている。
⇒伊勢市は生物多様性部分が弱いと感じている。調査を進めた上で、関係団体や市民との連携により、進めていけると良いと考えている。
- ・調査結果については、マニア対策も必要である。情報管理にはしっかりと気をつけていただきたい。
- ・外来種対策の啓発とあるが、池干しや外来生物の抜き取りといった行動まで含めた啓発か。それとも、パンフレットでの啓発か。具体的な例を入れてもらえると良いと思う。
⇒外来生物の生息情報は入ってくるが、その対策までできていない。まずは、PR をしていく必要があり、池の改良等の必要があれば、適切な対処してもらえるように働きかける必要がある。
- ・景観植物としてコスモスのイメージだと思うが、ビオトープとしての利用につながるようにしていただきたい。
- ・勢田川の水質について、周辺住民への啓発は行っていないのか。行っていないのであれば、取り組んでいく必要がある
- ・行政は普及率を使うが、市民から見ると接続率である。市民に対し、接続による環境保全も重要であることを PR していく必要があると思う。
- ・接続する費用の捻出は難しい。接続率を高めるのであれば、補助が必要である。
- ・初期費用もかかるが、問題は上水道使用料に対して下水道使用料も高いことである。下水道使用料を下げる、維持費を下げる方法を検討していただきたい。

<公益的機能の保全>

- ・干潟の保全はどこを想定されているのか。保全以前の問題のように感じる
- ・潮干狩りで小さな貝まで採っていかれてしまう。こうした注意喚起も必要である。
- ・海辺はウチワサボテンなど外来生物だらけである。市の広報などで、外来生物などの啓発も行ってほしい。
⇒市から情報発信を行い、市民と連携・協力して行っていく必要があると感じている。
- ・専門家がそれぞれいるので、意見を聞きながら進めていけると良いのではないか。例えば、名古屋に生物多様性センターがあり、ミドリガメ退治なども行っている。漁協と連携してやっていくことも考えられる。さらに、志摩アクティブレンジャーもいる。協力してやっていけると良いのではないか。

<都市・快適環境の向上>

- ・バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進とあるが、現行計画と同じ内容であり、もう少し掘り下げた方が良いのではないかと。
- ・公共施設におけるユニバーサルデザインに配慮した設計の実施とあるが、具体的にはどのようなものを想定されているのか。公的な施設が建てられるのは今後少なくなると思う。
⇒バリアフリーについては、公共施設のバリアフリー化は国の施策としても進められているものであり、基本的に公共施設においてはバリアフリーを考えることになっている。どこまでできるかは予算の問題であるが、何も考えないということではなく、必要などころにはしっかりと取り入れていくという考えである。
- ・空き家対策は環境分野だけでできるのか。これこそ総合計画等と連動してやることを明記する必要があるのではないかと。
⇒空き家対策は全国的にも問題になっており、今度の議会で空き家条例を出す段階まできている。現在、中心は都市整備部であるが、危機管理部、消防本部、環境生活部などが関わっている。重点事業においては、全庁横断的に空き家対策を講じるという表現をしている。

<歴史的・文化的環境の保全>

- ・伊勢の歴史や文化を感じることができる景観の形成を推進しますとあるが、新しく何か考えているのか。
⇒伊勢市では景観計画が策定されており、景観計画に基づく指導を推進することによって、良好な景観を形成していきたいと考えている。
- ・伊勢の環境文化を伝えるおもてなしについて、花のあるまちづくりなどはいくつかの老人会も取り組んでいるので、しっかりとバックアップをして欲しいと思う。

<環境教育・環境学習の充実>

- ・ESDの愛称をつけられない。ESDの概念が分かるようにものがあるとよいと思う。
- ・ESDは難しい概念であるため、分かりやすくするのは良いが、アイドルによる普及のようなことはしたくない。正攻法でありながら、分かりやすい表現をお願いしたい。

<重点事業>

- ・重点事業について、実情（現状）を書く必要はないか。空き家についても概数でいいので書けると、必要性が伝わると思う。
⇒検討させていただく。
- ・公共下水道の普及率について、第2次総合計画の現状値と重点事業に書かれている現状値が異なるが、これはなぜか。
⇒いずれかに統一させていただきたいと考えているが、下水道普及率と下水道の接続率という考え方がある。基本的には総合計画には合わせたいと考えている。
- ・太陽光発電設置件数について、来年になるとブレーキがかかるのではないかと。
⇒こちらについては、国の動向をしっかりと見ていかなければならない。伊勢市としては、エネルギーの地産地消を掲げており、民間事業者のおかげでメガソーラーも設置できたが、家庭用の太陽光発電の設置を引き続き頑張っていきたいと考えている。

- ・太陽光発電設置件数の目標は非常に評価できる。
- ・可燃ごみ量について、平成 26 年度目標値に対して平成 25 年度現状値でほとんど減っていない。
おむつは結構重く、相当なウェイトを占めていると思うが、この対策も必要なのではないか。
⇒ごみ処理基本計画策定後、順調に進んでいたが、平成 24 年度に止まってしまった。大きな取り組みを行えば話は別であるが、これまでの取り組みでは横ばいにしかならない状態まできている。
⇒原因の特定は難しい。景気が良くなるとごみが増えると思う。以前は布おむつであったが、現在は紙おむつが主流である。ファーストフードもごみが多く出る。こうした中、各家庭での更なる分別を啓発等していきたいと考えている。
- ・農地への生ごみの堆肥利用であれば、農家も助かるし、ごみの減量にもつながるのではないか。
こういった方向性を示したらどうか。実際にやっている方もいらっしゃる。大きい事業は難しいので、個々の取り組みとして支援できると良い。
- ・生ごみだけでなく、樹木の剪定枝、農家の糞ごみもある。農協とのタイアップした堆肥化なども必要である。
- ・生ごみ処理機を利用した肥料化と、生ごみの水きりによる減量化は別々に書いた方が良い。
- ・エネルギー消費量について、1990 年比とあるが、2005 年比、2007 年比を調べて記載していただきたい。

(3) その他

<イラストなど>

- ・写真やイラストが入ってくると思う。現行計画は伊勢神宮の写真があったが、こういった写真・イラストを使うのが気になる。現行計画では伊勢市が分かる自然環境の写真があったが、環境文化とは何か分かるような写真やイラストが欲しい。ぜひ検討していただきたい。現行計画の重点事業のイラストはよくできている。参考にしながら、最後の力を入れていただきたい。

<今後のスケジュール>

- ・パブリックコメントを 12 月に行い、その後に再度審議会を開かせていただく。
- ・本日の審議をもとに早急に修正して、会長、副会長にご確認いただき、パブリックコメント案とさせていただきます。

—以 上—